

(算数)

## 交流を通して、主体的に学ぼうとする子どもを育てる（算数科）

大阪市立宝栄小学校 桑原 美徳  
神牧 雅子  
吉野夕香里  
浅野 学

### 1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標として、「自ら考え、互いに協力し合う、たくましい体力と気力をもつ児童を育成する」を掲げ、自ら考え行動する子、友だちと助け合い協力する子、たくましい体力と気力をもつ子の育成をめざし、日々教育実践を重ねている。

21世紀は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤となる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような状況において、子どもたちが未来に向けてたくましく生きるためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視する「生きる力」を身につけることがますます重要となってくる。

「生きる力」とは、一人一人が自分らしさを発揮して、心豊かによりよく生きていく力であり、自己実現を目指す力である。その力を育成するためには、自らの課題を把握し、主体的に判断し、解決していく力を育み、交流を通して自他共に評価しあいながら自分を振り返るといった社会的相互作用の中で、主体的・能動的に学ぼうとする子どもを育てることが大切だと考える。

そこで平成27年度より、「交流を通して、主体的に学ぼうとする子どもを育てる（算数科）」を研究主題とし、算数科の学習を通して、自ら課題を見つけ、意見交流など他者と関わり合いながら、受容的・共感的な学習集団の中で、主体的に問題を解決しようとする子どもを育てるべく実践を積み重ねている。本研究を通して、本校で目指す算数科の「アクティブラーニング」について考察し、創りあげていきたい。

### 2. 研究の趣旨

#### 【1】基本的な考え方

○算数科の授業において、友達との交流を通して、自らの学びを創り上げていこうとする主体的な子どもの学びを目的とした研究に取り組む。

#### 【2】研究のねらい

○昨年度の成果と課題を踏まえ、本年度は、算数科の研究3年目として、子ども主導型の「話し合い活動」を取り入れた授業に取り組み、次の3点のうち、(2)と(3)を重点研究として、子どもの学力を高める教育活動を推進する。

- |                                                           |
|-----------------------------------------------------------|
| (1) 交流（学び合い）を深める指導法を工夫する。                                 |
| (2) 算数研究で目指す「主体的な子どもの姿」と「交流する（学び合う）子どもの姿」を分析し、具体的に明らかにする。 |
| (3) 子どもたちの学力向上を図るために、日々の授業をふりかえり、授業改善に取り組み、教師の指導力の向上を図る。  |

#### 【3】研究の視点

- (1) 「交流を深める指導の工夫」と「めざす子どもの姿」

- (2) ノート指導
- (3) 一人一人の子どもの姿の変化の分析
- (4) 学び合う学習集団づくり

### 3. 研究の概要

- (1) 交流（学び合い）を深める指導法を工夫する。
  - ①基本的な問題解決学習過程を設定する。
  - ②学習指導案の形式
  - ③板書の工夫
  - ④自分の学びを振り返ることができるノート指導の工夫
  - ⑤子ども主導型の授業での「話し合いの仕方」の指導（典型例を表示）
  - ⑥教室掲示の工夫
- (2) 算数研究でめざす「主体的な子どもの姿」と「交流する（学び合う）子どもの姿」を分析し、具体的に明らかにする。
  - ①分析の方法・・・ノートの記述、授業中の態度、発言などをもとに、一人一人のめざす子どもの姿の達成状況を分析する。
  - ②算数研究でめざす子ども像の見直し
    - ☆前年度の見直し・・・各学年部会で話し合う。
- (3) 子どもたちの学力向上を図るために、日々の授業をふりかえり、授業改善に取り組む、教師の指導力の向上を図る。
  - ①宝栄タイム（朝学習）の活用や家庭学習習慣の確立による学力向上の取り組み
  - ②校内研修会について
  - ③「振り返りカード」の記入について

### 4. 研究の成果と今後の課題

- (1) 研究の成果

今年度の取り組みでは、各学年の児童の実態に即した問題解決型の授業を通して、「話し合い活動を中心とした交流の在り方」「子ども主導型の授業」について探究した。各学年部会では「算数研究でめざす子ども像」の見直しを行った。研究討議会はワークショップ形式で行い、4つの研究の視点と研究討議の視点に沿って、グループや全体で話し合い、それぞれに次のような成果が見られた。討議会後には昨年度と同様、「振り返りカード」を記入し、研究授業や研究討議会を通して各自が何を学んだかを書き留めることで視覚化し、確認することができた。
- (2) 今後の課題
  - ①子ども主導型の授業への転換
  - ②学習の基盤となる、「学び合う学習集団づくり」
    - ・「話を聞く」などの学習環境や学習集団の雰囲気づくり
    - ・他教科（道徳や特活など）の授業との関連
    - ・子ども主導で取り組む学年及び学級活動の充実
  - ③ノート指導
    - ・書く力、自己選択する力を培う
    - ・友達の考えを写す、学習感想をかく 等
  - ④「主体的な子どもの姿」「交流する子どもの姿」を見極め授業に生かす指導力